

2012年1月25日
住友生命保険相互会社

「未来を築く子育てプロジェクト」受賞者決定のお知らせ

住友生命社会貢献事業

第5回『未来を築く子育てプロジェクト』

～子育て支援の3公募事業 受賞者決定～

応募総数 1,423 通

住友生命保険相互会社（社長：佐藤 義雄）は、子育てしやすい環境づくりを目指し、『未来を築く子育てプロジェクト』を2007年度に発足、「エッセイ・コンクール」「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の3公募事業を通して、子育てに関する様々な活動を積極的に応援しています。第5回目となる本年度は、2011年6月1日～9月30日の期間に展開し、合計

1,423通のご応募をいただきました。この度、『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会の選考のもと、下記の通り計44名の受賞者を決定しました。

各事業の受賞概要

◆エッセイ・コンクール

「子育て」を通じて周囲が得る気付きや喜びなど「子育てのすばらしさ」が伝わる作品として、1,177編のご応募をいただき、最優秀賞4編、優秀賞20編を決定。最優秀賞の田上直志さんには内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞、藤田智恵子さんには文部科学大臣賞、林亜麻美さんには厚生労働大臣賞が授与されます。

◆子育て支援活動の表彰

少子化対策や子育て支援に資する諸活動を行っている個人・団体からご応募いただきました。計127組の応募の中から、活動のユニークさ、汎用性などを考慮したうえ、未来賞10組を決定いたしました。この10組から「育児サークル『アンファン広場』」、「NPO法人 ふれあいサポート館アトリエ」、「特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ」を未来大賞として選出。100万円の副賞を今後の活動にお役立ていただきます。

また、「育児サークル『アンファン広場』」には内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞、「NPO法人 ふれあいサポート館アトリエ」には文部科学大臣賞、「特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ」には厚生労働大臣賞が授与されます。

◆女性研究者への支援

人文・社会科学分野を領域とし、現在子育て中でもある女性研究者119名の方からご応募いただきました。「スミセイ女性研究者支援」として10名の受賞者を決定。10名の受賞者には、1年間あたり上限100万円の研究助成金を最大2年間支給します。

また、表彰式を2012年2月13日（月）にホテルニューオータニ（東京）にて開催いたします。各募集事業の概要・受賞者については、以下の通りです。

【『未来を築く子育てプロジェクト』概要】

主 催：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

後 援：文部科学省、厚生労働省

協 賛：住友生命保険相互会社

審 査 員：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

実行委員長	堀田 力氏	(公益財団法人さわやか福祉財団理事長、弁護士)
実行委員	池田 守男氏	(株式会社資生堂相談役)
実行委員	大日向 雅美氏	(恵泉女学園大学大学院教授)
実行委員	奥山 千鶴子氏	(特定非営利活動法人びーのびーの理事長)
実行委員	金田一 秀穂氏	(杏林大学外国語学部教授)
実行委員	吉永 みち子氏	(作家) 以上、50音順
実行委員	横山 進一	(住友生命保険相互会社取締役会長)

審査結果：

●エッセイ・コンクール

募集内容：“子育て”“子育て”をテーマとしたエッセイを、幅広く募集。

「子育て」を通じて周囲が得る気づきや喜びなどの「子育てのすばらしさ」を伝えていきます。

表 彰：◆内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞（最優秀賞の中から1編）／表彰状

◆文部科学大臣賞（最優秀賞の中から1編）／表彰状

◆厚生労働大臣賞（最優秀賞の中から1編）／表彰状

◆最優秀賞 4編／表彰状、旅行券 20万円分

◆優秀賞 20編／表彰状、図書カード 3万円分

応募数：計 1,177 編

●子育て支援活動の表彰

募集内容：より良い子育て環境づくりに取り組む“個人”・“団体”を募集。

特徴的な子育て支援活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育ての不安を払拭することを目的としています。

応募規定：◆子育て支援に資する諸活動を継続的に行っていること。

◆活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。

◆活動の公表を了承していただける“個人”“団体”であること。

◆日本国内で活動していること。

表 彰：◆内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆文部科学大臣賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆厚生労働大臣賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

◆未来大賞 3組／表彰状、副賞 50万円

(未来大賞受賞者から3組選出。副賞は未来賞と合わせ、計 100万円)

◆未来賞 10組／表彰状、副賞 50万円

応募数：計 127 組



●女性研究者への支援

募集内容：人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成。“育児”のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給。



応募規定：◆人文・社会科学分野を領域とし、有意義な研究テーマを持っている。

- ◆原則として、応募時点で未就学児（小学校就学前の児童）を育てている。
- ◆原則として、修士課程資格取得者、または、博士課程在籍・資格取得者。
- ◆2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所などの指導教官または所属長の推薦が必須）。
- ◆現在、大学・研究所などに在籍しているか、その意向があること。
- ◆支援を受ける年度にはほかの顕彰制度、助成制度で研究助成を受けていないこと。（育児休業給付などは、研究助成に当たりません。）
- ◆国籍は問いませんが、応募は日本語に限ります。

表彰：「スミセイ女性研究者支援」 10名

助成金として、1年間100万円(上限)を最大2年間支給します。

支給期間は2012年4月から2014年3月までの2年間の予定です。

応募数：計119名

【第5回『未来を築く子育てプロジェクト』受賞者一覧】

■エッセイ・コンクール

(氏名・地域・タイトル、50音順、敬称略)

最優秀賞 4編

最優秀賞・内閣府特命担当大臣 (少子化対策) 賞

たがみ ただし
田上 直志 (栃木県) 「子育ての功名争い」

最優秀賞・文部科学大臣賞

ふじた ちえこ
藤田 智恵子 (青森県) 『『えんぶり』で育つ子ども達』

最優秀賞・厚生労働大臣賞

はやし あまみ
林 亜麻美 (兵庫県) 「私を支えてくれるもの」

最優秀賞

やまもと のぶゆき
山本 信之 (愛知県) 「風変わりな託児所」

優秀賞 20編

あんどう あやこ
安藤 彩子 (群馬県) 「チョッキン先生」

いしい ひろみ
石井 ひろみ (愛媛県) 「子育て・子育ての秘密」

いせき ちふみ
伊関 千書 (山形県) 「3人目のおばあちゃん」

いのうえ なみえ
井上 奈美江 (広島県) 「無音の愛」

えとう じゅん
衛藤 準 (大分県) 「抱っこする腕」

きむ すね
金 順愛 (愛知県) 「アリラン子守唄」

くめうち いずみ
糸内 泉 (三重県) 「皆、元赤ちゃん」

そがわ かずこ
曾川 和子 (大阪府) 「いい子ねえ」

たかはし すみえ
高橋 純恵 (広島県) 「空とエンジェル」

たにもと ようこ
谷本 陽子 (岐阜県) 「道端の隣人たち」

たむら めぐみ
田村 めぐみ (愛知県) 「学生結婚」

とくやす としゆき
徳安 利之 (広島県) 「少年とろう者」

とみざわ みほ
富沢 美保 (千葉県) 「楽しいから、いいのよ」

はやし まき
林 真紀 (神奈川県) 「子育てを「誇れる」社会へ」

ひょうどう かなえ
兵頭 佳苗 (愛媛県) 「うちの子のサポーター」

ひろべ ゆみ
広部 有美 (滋賀県) 「サロンに行こう！」

ふくだ かずこ
福田 量子 (高知県) 「初めての出産祝い」

まつの けいこ
松野 敬子 (京都府) 「遠くから、支えてくれてありがとう！」

よしだ たかし
吉田 崇 (北海道) 「月一イクメン!？」

よつもと めいこ
四元 明子 (福島県) 「“今”から繋がる“未来”」

■子育て支援活動の表彰

(グループ名・地域・活動内容)

未来大賞かつ未来賞 3組

内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞

・ 育児サークル「アンファン広場」（大阪府茨木市）

誰もが買い物に来るスーパーで育児サークルを開催し、孤立しがちな親に育児の楽しさ・大切さを体感してもらう活動を展開。

文部科学大臣賞

・ NPO 法人 ふれあいサポート館アトリエ（福島県相馬市）

子どもの創作教室に、遊び・野外活動などの要素を加え、全人格教育の観点から子育て支援と地域社会の創造に取り組む。

厚生労働大臣賞

・ 特定非営利活動法人 よもぎのアトリエ（広島県広島市）

有機無農薬弁当の配食や、ひとり親家庭の子育て支援活動『夕やけ会』、社会的に恵まれない子どもたちのための交流・学習の場『みんなが龍馬塾』など多様な活動を実施。

未来賞 7組

・ 特定非営利活動法人 ^{あらはん}阿羅漢（石川県加賀市）

生活保護や就学援助家庭の割合の高い温泉地域で、閉店したパチンコ店の店舗を改装し、子育て支援複合施設を運営。

・ ISSNE(岩手県南特別支援教育研究会)（岩手県一関市）

「子育てに少しコツのいる」子どもとその保護者を対象に、親子で楽しみながら、子どもの発達を促すための活動を実施。

・ Nっ子クラブ カンガルーの親子（福岡県筑紫野市）

低出生体重児と、育児中に孤独感を感じてしまいがちなその家族のための「親子の会」を開催。

・ NPO 法人 子どもの村を設立する会（京都府京都市）

虐待・育児放棄などにより傷ついた子どもたちの健全な育成のため、宿泊事業・野外活動事業・食育事業を実施。

・ 特定非営利活動法人 パパジャングル（福井県坂井市）

学童保育・父子キャンプ・絵本の読み聞かせなどの活動を通じて、地域の子どもたちとの交流を図るとともに、父親同士の繋がりを作る活動を展開。

・ ひさかた風土舎（長野県飯田市）

夏休みの間、地域の大人が「師匠」となって、子どもたちに勉強や遊びを教える「寺子屋」活動を20年間にわたって実施。

・ 特定非営利活動法人 ブラジル友の会（岐阜県美濃加茂市）

日本の小中学校に通う、日本語を母語としない外国籍児童への放課後学習支援教室を実施。

■女性研究者への支援 10名 (氏名・所属・研究テーマ、50音順、敬称略)

- ・ 浅田 恵美子 (京都大学大学院教育学研究科臨床教育学専攻)
研究テーマ：「不妊」をどう生きるか ―当事者のローカル・バイオロジー―
- ・ 奥 禮受 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科)
研究テーマ：バイリンガル教育の要因
―バイリンガル児童とその親のビリーフと母語保持努力を中心に―
- ・ 金 東妍 (東京大学大学院総合文化研究科)
研究テーマ：日中戦争・太平洋戦争期における「戦争詩」研究
- ・ 小沼 和子 (一橋大学大学院言語社会研究科)
研究テーマ：ドイツ中近世印刷本における挿絵及び木版画の役割
―民衆本『ティル・オレインシュピーゲル』を中心に―
- ・ 齋藤 優子 (東北大学大学院国際文化研究科・国際環境システム論講座)
研究テーマ：廃棄物資源化行政における政策決定プロセスに関する研究
―都市鉱山事業と災害廃棄物処理政策の日韓比較を中心に―
- ・ 清水 文枝 (明治大学大学院博士後期課程・明治大学政治経済研究科)
研究テーマ：在外米軍基地と米国の安全保障戦略
- ・ 西野 範子 (金沢大学国際文化資源学研究センター)
研究テーマ：文化資源学の実践 ―ベトナム、ハノイ、キムラン窯業村を事例として―
- ・ 福島 雅子 (東京芸術大学大学院美術研究科)
研究テーマ：近世初期の武家服飾に関する研究 ―伝徳川家康所用服飾類を中心に―
- ・ 藤田 久美子 (所属なし)
研究テーマ：高知県嶺北地域におけるコミュニティーを中心とした土砂災害対策
- ・ 三好 美知 (東日本国際大学経済情報学部・教育実習センター)
研究テーマ：ケイパビリティ・アプローチにおける学校教育の役割の射程

【東日本大震災緊急支援プログラムについて】

東日本大震災の発生を受け、「未来を築く子育てプロジェクト」では、従来の事業の枠にとどまらない取り組みとして、“被災した「子ども」や「その親たち等」のための支援活動を行う団体”への迅速な緊急支援を目的に、活動のための一時金助成（未来を築く子育てプロジェクト 東日本大震災「緊急支援プログラム」）を実施しました。

1. 対象活動・団体

東日本大震災により被災した「子ども」のための活動、または被災した「子育て中の親等」のための活動を行う団体（より良い子育て環境づくりに取り組む団体であって、東日本大震災によりその活動の再開・継続に相当の困難性を有すると認められる団体も含む）

2. 助成額

1 団体あたり 20 万円 総額 1,120 万円（合計 56 団体）

*助成対象となった活動・団体の詳細については、下記 URL をご参照ください。

<http://www.sumitomolife.co.jp/child/other/2011sinsai.html>

以 上